

普及だより

No. 141

令和5年2月15日

【編集・発行】雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
〒012-0857 湯沢市千石町二丁目1番10号
電話：0183-73-5114 FAX：0183-72-6897

第52回東北農村青年会議秋田大会開催!!

楽農喜族「Yuzawa」が現地視察運営を行いました



株式会社CRASでの視察の様子



現地視察研修（県南コース）の参加者一同

令和4年11月1日から2日にかけて、第52回東北農村青年会議秋田大会が開催されました。東北各県から約90名の農業者が集い、これまで取り組んだプロジェクトの発表や意見交換、現地視察研修などが行われました。

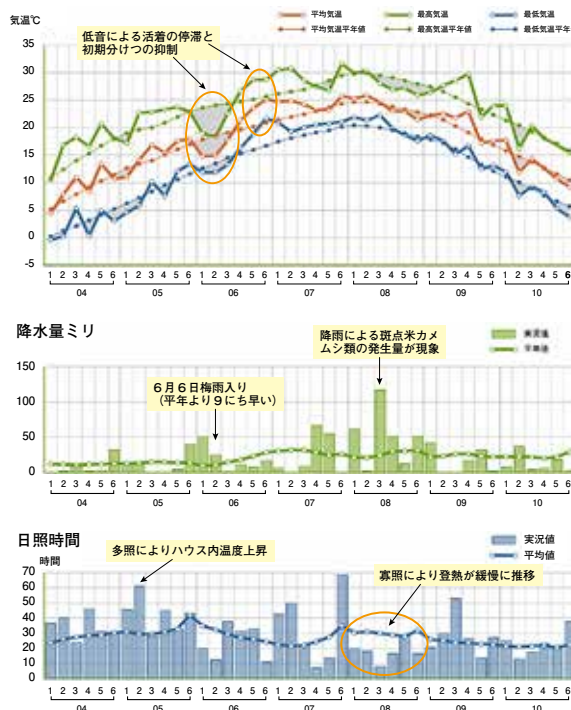
雄勝地域の農業近代化ゼミナール、楽農喜族「Yuzawa」は現地視察研修の運営を行いました。株式会社CRASでは、代表の奥山和宣さんから、特産の「三関せり」の収穫・調製作業の説明を受け、さらに、独自ブランドの商品化や経営について学びました。また、相川のネギほ場では、高い収穫・調製効率を実現する「ネギ魔神」を視察し、佐々木淳さんから、労働力や効率性について学びました。参加者からは、自分の農業に役立つものを見て、聞いて、学べる、有意義な研修であったと高い評価をいただきました。

4月：気温がやや高く、日照時間も長くなりました。
 5月：期間の多くが高温多照傾向となりました。
 6月：低温により、活着の停滞や初期分けつの発生が抑制されました。
 7月：最低気温が高く、草丈が急激に伸長しました。
 8月：寡照により、登熟が緩慢に推移しました。
 9月：成熟期は平年並でしたが、強風雨などの影響により徐々に倒伏が進み、広範囲に発生が見られました。

水稻定点調査（あきたこまち：8カ所）の、 m^2 当たり穂数は429本（平年比96%）、1穂粒数は76.8粒（同111%）となり、 m^2 当たり粒数は32.9千粒（同107%）で平年より多くなりました。登熟歩合は82.1%（同95%）で低く、千粒重は22.8g（同102%）で平年並、10a当たり玄米重は573kg（同99%）の平年並でした。

作柄の要因として、田植え後の低温の影響で分けつの発生が抑制され、茎数が平年より少なく（平年比97%）穂数不足に繋がったことや、その一方で、一穂粒数が平年より多く、 m^2 当たり粒数は過剰となり登熟歩合が低下したことがあげられます。

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：4月1半旬～10月6半旬）



	玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m^2 当たり 粒数(粒/m ²)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
本年(2022)	573	429	76.8	32,855	82.1	22.8
平年	578	447	69.1	30,839	86.2	22.3
平年比(%)	99	96	111%	107	95	102
前年(2021)	622	431	76.3	32,826	83.6	22.7
前年比(%)	92	100	101	100	98	100

- ① 種子予措や育苗期間中の温度管理を徹底して、健苗育成に努めましょう。
- ② 気象変動による作柄や品質への影響を抑えるため、適期田植えと適正な栽植密度を確保しましょう。
- ③ 細やかな水管理により適正な生育量の確保に努めましょう。
- ④ あきたこまちの目標収量を570kg/10aとした場合、必要な粒数は m^2 当たり30.3～31.5千粒です。
 幼穂形成期の栄養診断に基づいた追肥の判断により、目標とする m^2 当たり粒数の確保に努めましょう。



市場デビューとなった昨年は、雄勝地域で約60ha、71人の生産者がサキホコレを栽培しました。
 生産者登録に関する詳しい説明や、栽培に興味のある方は当地域振興局もしくは農協にお問い合わせください。

野菜

6月:低温、7月:高温、8月:日照不足で苦戦

ねぎ



夏ねぎは、6月上旬の低温、7月の高温の影響で、生育が遅れ、初出荷は、7～10日遅れました。8月の長雨の中、収穫が行われましたが、軟腐病や腐敗病の発生が多く見られました。

秋冬ねぎは、比較的、好天に恵まれ、順調に収穫が行われました。軟腐病対策のため、排水対策の徹底と薬剤による適切な防除を行いましょう。

えだまめ



5月の乾燥、6月前半の低温で早生種の収穫期が遅れた他、出荷盛期の8月の長雨、日照不足により成品率が低下し収量は前年より減少しました。連作している

ほ場が多く、ダイズシストセンチュウの発生ほ場が増えています。輪作やセンチュウ密度低減効果のある緑肥作付など総合的な対策が必要です。

スイカは、交配期を迎えた6月上旬が低温だったため、着果不良や奇形果が発生しました。更に7月が高温だったため、一部で日焼け果が発生しました。病害

スイカ



では、炭そ病の発生が多く見られました。病害対策は、予防が重要となるので、早めの薬剤散布を行いましょう。

6月後半からの高温で前半の出荷ピークは早かったのですが、7月の高温による落花、8月以降は長雨、日照不足が続き、小玉傾向となり前年より収量は減少しました。確実なホルモン処理、適期防除、天候に合わせた施肥、灌水など、基本技術を再確認し長期間の栽培安定につなげましょう。

トマト



6月後半からの高温で前半の出荷ピークは早かったのですが、7月の高温による落花、8月以降は長雨、日照不足が続き、小玉傾向となり前年より収量は減少しました。確実なホルモン処理、適期防除、天候に合わせた施肥、灌水など、基本技術を再確認し長期間の栽培安定につなげましょう。

きゅうり



露地きゅうりは、定植直後の6月上旬の低温の影響で生育が遅れ、7～10日の収穫が遅れましたが、7月が高温だったため、生育が回復し、収穫量が増加しました。8月は、成り疲れと長雨、日照不足の影響で収穫量が減少しました。台風14号の接近とともに9月中旬で終了する生産者が多く見られました。ハウスきゅうりは、収穫のピークを迎えた6月上旬の低温の影響で出荷量が一時的に減少しましたが、7月の高温で回復しました。

病害虫は、斑点細菌病の発生が多くなりました。定植時の薬剤の使用と定期的な防除を行いましょう。

単収向上のため排水対策を！

令和4年度
排水条件改善モデル実証の取り組み

県では野菜の単収向上対策に取り組んでいます。水田転換畑での園芸作物生産の安定には排水対策が最重要であることから、各地域振興局において排水条件改善モデル実証に取り組んでいます。

今年度雄勝では施設トマトで実証を行いました。

カットブレーカーという機械で50cm程度の深さで全層破碎を行いました。

耕盤が破碎され、根域も拡大することで、単収向上につながることが期待されます。

排水改善にはほ場条件に合わせ額縁明渠や、補助暗渠施工、各種機械を用いた心土破碎など各種対策があります。耕盤の硬さなど断面調査を行って対策を提案することができますので、ご相談ください。



カットブレーカーによる心土破碎実演。
V字の刃で心土を持ち上げて破碎する。

花き 品質向上努力と需要期計画出荷で市場評価高まる!

トルコギキョウを主に小ギク、リンドウ、ストック、スターチス等の洋花を組み合わせた周年生産が行われています。昨年は6月上旬は低温、7月は高温、8月は日照不足、9月は高温と栽培期間を通して管理が難しい気象条件で、害虫の発生量も多かったため、栽培に苦慮した年でした。

大変厳しい栽培環境でしたが、どの品目でも状況に応じたこまめな栽培管理、適期の病害虫防除、部会内での技術の研鑽により、高品質の切り花が出荷され、評価は高まりました。

トルコギキョウ

6月上旬から12月上旬まで継続して出荷されました。各作型の出荷ピークは、越冬作型は7月上中旬、季咲き作型は8月上旬、抑制作型は9月中旬及び10月上旬でした。

求められる品種を作型に合わせて栽培し、鮮度を重視した荷造りと予冷库の活用により、出荷情報を市場にいち早く届け、コロナ禍で変化した販売情勢に対応しています。



トルコギキョウ巡視会

小ギク・リンドウ

8月お盆出荷作型では、高温等の影響により特に小ギクで開花遅延が発生し、9月出荷作型では、お彼岸需要期よりやや前進開花となりました。

病害虫の発生は、小ギクではヨトウムシ類、リンドウでは褐斑病の発生がやや多かったものの徹底防除が行われ、全体的には大きな被害はありませんでした。需要期出荷量の拡大に向けて、小ギクの親株伏せ込み、リンドウの越冬管理も順調に行われています。



小ギク巡視会

果樹 人工受粉の徹底で安定した結実を!

昨年の結実率は開花期間中の天候不良や訪花昆虫の減少、人工受粉の不徹底など複数の要因が重なって、過去20年間で最も低くなりました。また、5月下旬から6月上旬の降雨により裂果が多発したことで、さらに収穫量は減少しました。

収穫期は例年よりも早まりましたが、収穫開始直後から気温が30℃近くまで上昇し、また、夜温も高く推移したことから果実の軟化が急激に進み、品質を維持できた期間は短くなりました。



オウトウハダニの被害葉
白くかすり状に脱色



裂果したオウトウ

収穫期間中は病害虫の発生は問題となりませんでしたが、収穫後はオウトウハダニや褐色せん孔病が多発し、落葉する園地がみられ、今年への影響が懸念されます。

今後もオウトウにとって厳しい気象条件の年があるかと思います。昨年発生した多くの問題を「気象のせい」の一言で片付けず、自分の園地の課題を改善するきっかけとしてください。

畜産 地域内粗飼料の稲わら収集に協力を

畜産農家では、近年の輸入飼料価格の高騰に伴い、外国産の粗飼料から地域内で生産される粗飼料(牧草、デントコーン、稲WCS、稲わら等)にシフトしようとする動きがあります。特に肉用牛農家(主に肥育)が必要とする稲わらは、太平洋側では耕種農家側が稲わら収集や堆肥散布を行うことも多いのですが、秋田県では晴天に恵まれることが少なく、畜産農家自身の余力を頼みに集中的に作業をするのが一般的で、なかなかこれ以上収量を増やせないのが実状です。専用機械(ロールベラ、ロールグラブ、水分が多い時にはラッピングマシンなど)を要するなど課題もありますが、第三者が稲わらを収穫することができればそれを畜産農家が有効活用し、畜産農家から出る堆肥はほ場に還元することで土壌の改善につながることでもあります。耕種農家の積極的な取り組みに期待します。



高校生に雄勝の農業をPR

県では農業教育高度化事業により農業系学科のある高校と連携し将来に向けた就農啓発活動を行っています。この一環で増田高校の生徒を対象に、雄勝地域の先進的な農業経営の取り組みを紹介しました。

園芸メガ団地視察 令和4年10月12日

羽後町嶋田地区のJ A うご園芸メガ団地において齋藤伸一さんからトルコギキョウの栽培について、湯沢市関口地区のねぎメガ団地において佐藤義雄さんからねぎの栽培について紹介いただきました。お二方からは、大規模な園芸経営を実践する上での作業の工夫や、雇用を通じた地域貢献など農業の魅力についてお話をいただきました。



出前授業 令和4年10月20日

湯沢市三関地区の株式会社C R A S 代表の奥山和宣さんより、「伝統産地三関ブランドの新たな価値創造へのチャレンジ」と題して講演いただきました。奥山さんからは、地域の仲間とともに法人化し「三関せり」を中心に新商品開発や販路拡大に取り組んでおり、若者に魅力ある農業経営を実践することで農業を将来子供のなりたい職業No.1にしたいとの想いが語られ、生徒からも活発な質問が寄せられました。



集落型農業法人連携推進研修会を開催



集落営農組織等を担う方々を対象にした研修会を12月に湯沢市で開催し、36名の方が出席しました。

研修会では阿部誠一税理士を講師に、今年から導入が始まる消費税インボイス制度の仕組みや対応について学びました。

本則課税で納税している法人の場合、構成員との作業委託費・ほ場管理料、従事分量配当などで仕入税額控除ができず負担が増す可能性があることが紹介されました。経過措置制度があり、その段階によっては簡易課税が有利になる可能性があること、2年単位で納税方法の変更が可能であることなども紹介されました。

農業振興普及課からは「米・大豆関係補助事業活用についての基礎知識」として補助金のルールと手続きについて情報提供を行いました。

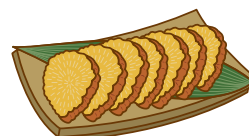
また、「集落営農の現状と課題について」として県内では1つの集落営農組織がおよそ1.5の集落を担っている現状と、経営力強化のためには、集落の枠を超えた規模拡大や複合化・多角化、他の法人等との連携による効率化が重要であることを報告しました。



食品衛生法の改正 ～猶予期間は令和6年5月31日まで～

漬物製造業について、猶予期間以降も営業を続けていくためには、新施設基準を満たす施設を用意し、猶予期間内に営業許可を取得する必要があります。**令和6年5月31日までに営業許可を取得しなければ、令和6年6月1日からは漬物の製造・販売を行うことはできません。**

漬物を猶予期間以降も製造・販売したい方は、施設の改修や新築工事にかかる前に湯沢保健所環境指導課（連絡先：0183-73-6157）まで電話連絡の上、事前相談を行ってください。



新・農業士紹介

青年農業士

湯沢市 柴田 裕基 さん

湯沢市三関地区にてオウトウ、りんご、せりの複合経営を実践。地域の仲間とともに食味、品質を追求した技術の確立に努めています。若手農業者で作る楽農喜族「Yuzawa」の会長を歴任するなど青年農業者のリーダーとして活躍しています。



指導農業士

羽後町 佐藤 弘 さん

肉用牛繁殖130頭を主体とした肉用牛一貫経営と食肉の直売により、「羽後和牛」ブランド化を実現。令和3年に法人化し「(株)ライブストックさとう」を設立。研修受入を通じて就農希望者の育成を担うなど地域農業のリーダーとして活躍しています。



新規就農者紹介 東成瀬村 横尾 堅一郎 さん

「未来農業のフロンティア育成研修」花きコースで、1年目は農業試験場、2年目は羽後町の現地で意欲的に研修し、令和4年3月に修了後、就農しました。令和4年度は、6aでトルコギキョウの栽培を開始し、丁寧な管理を行い、おおむね順調に計画通りに出荷しました。

JAこまち花卉部会に所属し、先輩部会員に栽培技術や品種選定について相談し、アドバイスを受けながら営農しています。

父のリンドウ栽培も手伝いながら、冬期間はいぶり大根の加工・販売も行っています。



今後の展望

- ・ハウスの棟数を増やしていきつつも、夫婦で品質にこだわった栽培を続けていく。
- ・東成瀬村でもトルコギキョウ農家が増えるようにがんばりたい。



楽農喜族「Yuzawa」会員募集中!

楽農喜族「Yuzawa」は、20～30代の会員を中心に若手農業者で組織される団体です。各会員の作目は異なりますが、会員相互の交流、農業技術の習得、農産物の販売研修などの活動を通じて営農の向上を目指しています。



冬期座学研修



ゼミナールフェスティバル

連絡先

0183-73-5114

(雄勝地域振興局 農業振興普及課内)

担当

高橋・袴田

